

# 武尊通信

ほたかつうしん  
第185号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033  
群馬県伊勢崎市  
南千木町 5226-12  
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2026.3.1 発行

## 盆のヒルバテエについて

横田雅博

ヒルバテエという言葉がある。かつて群馬県内各地で聞かれた民俗語彙で、昼食に打って食べるうどんのことをいう。民俗報告書の多くで盆の食習慣の一つとして報告され、盆のヒルバテエ（あるいはヒルバテイ）などと記述されている。

ヒルバテエが報告された早い例は、『榛東村の民俗』（群馬県教育委員会、一九六四年）であるが、その後長い間、この言葉の意味や語源は不明のままであった。昼食のうどんであることから、ヒルは昼のことと容易に推測されたが、バテエ（あるいはバテイ）の見当が付かなかつたのである。

これに一つの解釈を与えたのが都丸十九一であった。都丸は、盆の昼うどんが盆棚に供えられることに注目し、盆棚の結び縄に下げられるうどんを「北橋村のわが家」でヒルバ

テイと呼んでいたことを紹介する。そして、精霊の乗り物として盆棚に供えられるナスやキュウリの馬と関連付け、うどんは馬の口取りすなわち馬丁へのご馳走だったのではないかと述べている（都丸十九一『上州歳時記』広報社、一九九七年）。つまり、ヒルバテイ＝昼馬丁と解釈したのである。

しかし、県内の民俗報告書や自治体史を見ても、精霊馬を引く馬丁の存在を示すような伝承は特に見当たらない。盆棚の縄に下げられるうどんやそうめんのことは、仏様の力チンナワ・ニナワ・シヨイナワ・馬の手綱などと記載され、ヒルバテエは盆の昼食に作るうどんのことと報告されている。また、盆に作る人が多いとしながらも、昼食のうどん全般をヒルバテエとする報告も、少数ながら存在する。つまり、盆棚の縄に下げるうどんをヒルバテイと呼ぶ事例は、都丸の「北橋村のわが家」のみなのである。しかも、それは都丸自身の記憶ではなく、都丸の甥が祖父（すなわち都丸の父）から聞いたことを又聞きしたものであった（都丸、前掲書）。

### 《第一三二回 例会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催  
します。

日時 二〇二六年三月二十九日（日）

午後二時～五時

会場 前橋市中央公民館五〇六学習室

（前橋プラザ元気21 五階）

報告 水落 建哉氏

「伊勢崎市千本木龍頭神舞における舞の認識―動作と演目に着目して―」

菱沼 一憲氏

「鎌倉幕府体制下の佐位・那波郡」

申込 会場・オンライン視聴いずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記URL、一次元

コード、本会HP）

に接続し申し込みを

行うか、TELまた

はFAXでご連絡く

ださい。



URL : <https://forms.gle/azs4qwdBTgpcARNE8>

TEL/FAX : 0270 (32) 9070

これらのことから、筆者は、ヒルバテイ＝昼馬丁とする都丸説には無理があると考えられる。盆の精霊馬に結び付け、存在の明らかでない馬丁を登場させるのは、少々強引なのではないだろうか。筆者はもっと単純に、ヒルバテエは昼うどんという意味だと考えている。